

■学校経営のポイント

子供の実態の再確認と活用

小島 宏

新年度がスタートして1か月、子供たちに「質の高い教育」を保障するため、実態の再確認を行い、指導・対応の充実に活用したい。

校長のリーダーシップ

適切な実態把握と充実した教育活動には、校長のリーダーシップが重要である。学年・学級、教科・領域、関連校務分掌等の責任者や担当者に対して、チーム学校として組織的に、実態の再確認と活用に努めるよう指導・指示することが求められる。

実態把握の視点

子供はそれぞれ能力・適性、興味・関心、性格、発達、身体・健康等が異なっている。これらの特性や諸課題を把握し、配慮して、学級経営や学習指導等の計画や実施に活用する必要がある。

その際、次の視点を参考に進める。特に配慮する事柄を優先し、学級経営や学習指導及び生活指導等を進めながら再確認・補充し、子供理解を深め、指導の充実に反映させるよう努める。

- 障がいの有無や程度及び必要な配慮の状況
- アレルギー(特に食物アレルギー)、持病(心臓病、気管支喘息、糖尿病、ネフローゼ)など健康状況や配慮事項
- 不安・困っていること・心配ごと、いじめ、友人関係・人間関係などの状況
- 学力(定着度、学習意欲)、生活指導・生活規律、学習習慣の定着の状況
- その他の諸事情(家庭の事情など)

実態把握の具体的な進め方

年度始めは、すべき事が錯綜し多忙である。そこで例えば、次のような方法で教職員が連携し、必要

な情報を効率的に収集または確認したい。

- 前年度までの指導要録、送付されてきた抄本等を読み込み、特徴を捉える。
- 聴取する項目を絞り込んで、前担任、養護教諭、教育相談員・専門スタッフ等から聞き取る。
- 子供に、例えば「希望」「頑張ること」「になりたい自分」などの短作文を書かせ、その子の思いや願いなどを読み取る。
- 子供との面談、雑談などを通して、その子の思いや願い、不安などを読み取る。
- 前年度の学級日誌、看護日誌などの記録に目を通し、集団や個人の実態を捉えるヒントにする。
- 4月以来の学級づくりを進める中で、自分の目で観察したことを基にして、特徴を捉える。
- 前年度の保護者会・諸会議、苦情等に寄せられた保護者や地域住民等の要望・意見から必要な情報を得ることもできる。

実態の整理・再確認と活用

学校として簡便な様式を整え、実態を簡便な個人カルテに整理し、その後の指導・対応の様子、変容の状況を記録していく。なお、子供の実態は高度な個人情報なので、他者の目に触れたり、流出したりすることのないよう厳重な管理が必要である。

また、子供の実態を固定化し、先入観にとらわれた指導・対応をしないように留意する。

「困った子」とみるのではなく「困っている子」と考えて、その困っていることを乗り越える指導と対応が重要となる。「この子はきっとよくなる」と信じ(ピグマリオン効果)、「〇〇がとてもいいよ、ここを直すともっとよくなるよ」(肯定的評価)と、よさを伸ばし自信を持たせるよう活用したい。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●時間割・指導・評価・研修・・・全面実施までの対応全て 小学校英語教科化への対応と実践プラン

【編集】吉田研作 A5判・164頁／定価(本体1,800円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

